

## ◎報 告

## 看 護 部 活 動 報 告

## 三朝分院看護部

## 1. 教育活動

## 【院内教育】

(学習会)

看護記録の改善を目標に、月1～2回の学習会をもった。「情報収集」について様式改善、収集時の申し合わせ、記入の取り決め等行った。疾患別の実例を各チームより提出し全員で検討した。

(個人研究)

12月、1月に院内発表会をもった。

## ①歩行運動指導の手引き

西村伸子, 黒田昭子, 池田昭子, 細田つる子  
歩行による消費カロリーの実測測定データを基に、当院の施設を利用した歩行運動の目安、患者指導用の手引きを作成した。

## ②遠隔地より入院の喘息患者の看護

寺崎佳代, 藤井洋子, 山本貞枝, 高田信江  
喘息患者の入院増加に伴って遠隔地よりの入院も増加している。特に遠隔地よりの患者が求めている看護を知り、その対応を考えるために行ったアンケート調査の結果をまとめた。

## ③経過記録の中にPOSを取り入れる

中村寿美江  
受持患者の看護記録3例について、POSでどの程度記録出来るのか、書けない項目、書けない理由等について検討した。

## ④妊婦水泳を試みて

坂田旬子  
院内の温泉プールを使用し妊婦水泳を開始するに当り、アンケート調査により妊婦の認識度を知り、実施計画を立て、15例実施した結果を報告した。

## ⑤変形性腰痛症へのアプローチ

伊賀真由美, 前田恵子, 石田美枝子,  
江間美津子  
2症例に対して、昨年作成した「指導ポイント」

「腰痛日誌」を使用して、患者自身が腰痛に関して日常生活の中の問題点を見つけ、それに対処して行くように援助した過程をまとめた。

## ⑥遠方よりの入院患者の意識調査

吉田佐智江, 藤井純子, 福井由美  
昭和61～62年度の県外からの入院患者にたいして、入院生活についてのアンケート調査を行った。まとめた結果について病棟ナースにアンケート調査をし、患者と看護婦の意識の相違等について報告した。

## ⑦肥満食を食べている患者とのかかわり

田熊正栄, 賀須井捷子  
カロリー制限食を食べている4例について入院中の指導とその効果、肥満度の推移、退院後の継続状況を報告した。

## ⑧外来における糖尿病食事指導の試み

尾崎信子, 山上桂子  
外来終了後の時間を利用して個人的指導を行った6例について、指導方法の実際と効果についてまとめた。

## ⑨カードデックスの効果的利用

石湯和子, 吉尾慶子, 増井悦子, 能見真由美,  
西谷由紀子  
A4版の用紙が4枚挿入出来るビジブルブックを使用し、患者情報、看護計画、経過記録、医師指示控え(注射、処置、投薬等)が一目で見えるものを作成した。記入、使用法についての取り決め、ビジブルブックの軽量化サイズ等について続けて検討中。

## ⑩RA患者の履物について

吉田順子  
履物の工夫の必要性を理解してもらい、看護援助を有意義にするため、足部の構造、履物の条件等の学習、市販品の利用について看護婦としてのかかわりかたを検討した。

①看護度調査により病棟状況の把握、看護要員の算定、適正配置を考える

稲垣喜久子

看護度を月1回調査したものと、毎日1カ月間調査した平均との差違をみた。

当院と他施設との比較（中小規模病院、特Ⅱ類看護病院、文部省系統病院）との比較をした。

看護度を6段階点数化による看護要員算定法により、東西チームの要員配置の適否を検討した。

県看護協会研究発表会に「妊婦水泳を試みて」を

発表した。

（講演会）

7月「コンピューターとは」 中井先生

11月「アセトアミノフェン法」 田中講師

1月「レスピレーターの使用法と看護」

森末先生

熱心にご指導をいただいた。

（看護助手研修）

全身清拭について

### 【院外研修】

日本看護協会看護学会成人分科会、看護管理学看護セミナー

中四国看護研究学会、看護婦研修会、県看護協会看護婦研修会、岡山大学肝炎予防講習会

その他研究団体セミナーに出席し研修した。

本院看護部合同カンファレンスを聴講した。

例年行われる日本アレルギー協会中国支部「喘息児童夏期教室」に参加協力した。

上記研修の報告書は全員に回覧し、必要なものは伝達講習をした。

## 2. 業 務

昨年に続き、申し送りの改善を目標に活動した。申し送りの基準（7項目）を作成し、1カ月間試用後、各自テープ録音し自己評価した。明白な改善をみなかったが、個々に反省のよい機会となった。再評価の時期が少し早かったとも考えられるので、引き続き経過を見て、再度評価の予定である。

## 3. その他

（グループ活動）

・患者受持制の検討 （リーダー 中村）  
受持制の充実をはかる目的で、問題点を3点にしぼり、それぞれ検討し対策をたてた。

・看護手順の作成 （リーダー 賀須井）  
本院の看護手順を参考に、当院独自のものを文化する事を目標に、基礎的なものをまとめた。

・業務改善 （リーダー 黒田）  
資料作成のため、看護要員全員の業務内容と所要時間をタイムスタディ方式で、一週間調査し分析した。

・パソコン利用 （リーダー 吉田 j）  
病棟事務、看護事務業務の省略化、標準看護計画の利用等にパソコン導入の可否を検討した。

・読書会 （リーダー 西村）  
月2回テキストをもとに抄読会をひらいた。テキストの読後感を話し合うことにとどまらず、時には脱線しながらも、現場の悩み、人間関係、看護婦の在り方、メンタルヘルス等話題は尽きず、学びながらストレス解消にも役立った。

（レクリエーション）

手芸教室、ピンポン大会、森永記念公園での野だて等、楽しんだ。

（患者教室）

・リウマチ教室  
月2回程度ひらき、昨年に続き履物の話、保温、弾力包帯の使用等について患者と一緒に学習した。延参加数 253名。

・喘息教室  
昨年に続き、月2回程度ひらき、経験談、困っていることなど話し合ったり、ビデオで「ダニの生態、吸入の方法等」患者と一緒に学んだ。延参加数 280名。

・糖尿病教室  
今年度は外来患者も対象とし、月1回ひらいた。試食会も、患者各自が自分の摂取カロリーを計算

し、主食をそれぞれ計量して皆で昼食をとる形で行った。延参加数 125名。

今年度も、看護部にたいして、たくさんの方々

からのご指導、協力を戴きました事を心より感謝いたします。

(稲垣 記)